

(第6号様式)

学位論文審査の結果の要旨

氏 名	Vita Fajriani Ridwan
審査委員	主査 松村 暢彦 副査 二神 透 副査 羽鳥 剛史

論 文 名

Relations between Place Attachment and Sense of Acceptance international student in Japan

審査結果の要旨

本論文は、社会的包摂の促進を見据えて、外国人の被受容感と地域愛着の関係性を明らかにし、メンタルマップとアンケートの統合データを用いた地域愛着の空間分布モデルを作成、視覚化するシステムを開発することを目的としている。経済社会の構造変化の中で、地域でのつながりが薄れていく中、社会的リスクが連鎖し、外国人を社会の周辺に追いやる社会的排除の危険性が増えている。日本で居住する外国人が年々増加していることから社会的包摂を進めていくことが必要とされる。社会的包摂には、生活スタイルの適合度や日本語能力などのほか、パーソナルネットワーク等のソーシャルキャピタル、地域愛着などが複合的に関わると考えられる。本論文は、こうした課題に対して、社会的包摂と関連が深い心理学の「被受容感」を用いて地域愛着との関係を含めた意識構造モデルを実証的に分析した点、メンタルマップとアンケートデータを統合したデータに空間統計を適用する点において十分な新規性と独創性が認められる。さらに、このシステムを活用することによって、外国人の被受容感を高める対策に資する有用な知見を得ることが期待できる。

本論文は以下のように構成されている。第1章では、グローバリゼーションの進展により日本在住の外国人が増加しており、社会的包摂の必要性が述べられ、また論文の目的や全体の構成が記述されている。第2章では、被受容感の学術的な位置づけを示し、被受容感を高めるうえで地域愛着が重要になることを既往研究を整理することで明らかにしている。第3章では、愛媛大学の外国人留学生を対象に地域愛着や被受容感に関する心理的指標を把握するアンケート調査と居住地域のメンタルマップを作成するワークショップ調査の概要と基礎集計をまとめている。第4章では、留学生の被受容感に影響を与える変数として地域愛着、食生活等の文化的習慣、友人数等のパーソナルネットワーク、日本語スキルを想定し、各変数の特性を分析したうえで、共分散構造分析を用いて検討している。第5章では、地域愛着の空間分布モデル化に際して、メンタルマップから抽出された場所データとアンケート調査から得られた心理統計量を統合した空間統計分析を用いてモデル化し、GISを用いて地域愛着の空間分布を視覚化した。第6章では、メ

ンタルマップの形成に影響を与える因子を5章で推定した地域愛着の空間分布モデルを用いて検討した。具体的には留学生のメンタルマップ記載されている場所について、日常的に使う経路、施設等の関係性について検討した。第7章では、本研究の結果を取りまとめるとともに総合的な考察を行った。

得られた主な知見は以下の通りである。

- ・外国人留学生の被受容感の意識構造モデルより、被受容感を高めるためにはパーソナルネットワークの重層性、特に日本人との関係性を高めること、食生活や宗教生活がストレスなく送れるようにすることが効果的であることが示された。また社会の被受容感と地域愛着は双方向の関係性があり、被受容感が高いほど地域愛着が高く、地域愛着が高いほど被受容感が高くなることから、被受容感を高めていくためには地域愛着が重要な因子であることが示唆された。
- ・地域愛着の空間分布を推計するために、メンタルマップと地域愛着に関するアンケート調査から得られたデータに空間統計分析を用いてモデル推定し、GISを用いて視覚化できるシステムを開発した。このシステムを用いて地域愛着分布を重ね合わせることで、地域愛着と空間整備とを対応付けすることができ、今後の空間整備の方向性に役立つことが期待される。
- ・留学生の地域愛着の空間分布を比較するとパーソナルネットワークの重層性が高い大学が中心的役割を果たしていることが明らかになった。このことから大学での日本語スキル講座や文化的交流機会を増やしていくことが被受容感を高めることが示唆された。

学位論文の公聴会は令和3年2月12日に開催され、続いて開催された学位論文審査会において慎重に審議を行った。審査の結果、本論文は、外国人留学生の被受容感と地域愛着の関係性と影響を明らかにすると共に、メンタルマップとアンケートデータの統合データから被受容感を高めていくための有用なシステムを開発しており、得られた成果は学術的・実務的に重要な貢献をしていると判断でき、博士（工学）を授与するに値すると全員一致して判定した。